

「あなた方は地の塩である。…世の光である。」（新約聖書マタイ伝五章十三、十六節）

田村明の生涯を振り返った時、四十八年前、横浜市に迎えられる、その六大事業を提案し、荒れていた敗戦後の横浜に、みなとみらい地区や高速道路、地下鉄、ベイブリッジ等が建設され、横浜は一変した。しかし市長が代るといふ政変があつて、六大事業は引き継がれたが、田村は大学に移つたため、田村の名前を知る人は関係者以外少ないかも知れない。大学で教えつつ、日本の各地を廻つて、その「まち」らしい「まち」を市民と造る手伝いをさせていただいた。その後その志を継ごうとする人々によつて「田村明記念・まちづくり研究会」なるNPO法人が作られ、理論と実践の両方を進めた田村の業績をまとめ、海外にも発信したり、来年横浜で開かれる「国際都市計画学会」にも発表しようとしている。

一方「自治体学会」も毎年、日本のまちづくりに貢献した人や団体を掘り起こして「田村まちづくり賞」を差し上げ日本のまちづくりが少しでもよい方向に進むよう激励している。

「地の塩たれ」という言葉は、大塚久雄氏（内村鑑三の弟子、経済史学者、実家の父の親友）が、私の結婚式で論して下さった言葉だが、明も常に愛して甥たちにも贈つた言葉が「地の塩」だったことを、今、心を熱くして思い返している。